

蔵の町喜多方 市民参加による蔵の調査事業

まちづくりと総合学習の連携

—「蔵探検隊」報告書—

0. はじめに

昨今、地方都市において、まちの活力や魅力を取り戻すために歴史的資源を活かすまちづくりが行われている例は多く、その結果として、活力や魅力を取り戻している地域も多く見られる。しかし、まちづくりの意識がまち全体に波及し、継続的な活動がなされなければ再び衰退してしまう恐れもある。特に、後のまちづくりの担い手となる世代が自らのまちの魅力を把握することは、継続的なまちづくり活動にとって非常に重要である。

現在、喜多方市内には2600棟の蔵があるとされているが、それらは、まちなかだけでなく、周辺集落、農村部にも数多く、そして多様に存在し、現在でも生活と密接に関わりながら息づいている。然るに、喜多方(北方)地方にとって、蔵というものは、近世・近代の歴史的風土、景観形成に重要な位置を占めており、豊かな自然を背景に育まれてきた生活文化の象徴、誇りであるといえる。このような背景のもと、近年、「北方ツーリズム」という、蔵を媒介として、「まちなか観光」と「周辺農村部・自然観光」を融合させようという独自のツーリズムを展開しようという動きも見られてきた。

その一方で、毎年壊されていく蔵も数多い。その一因として、住民にとっては身近すぎるが故に地域独自の生活様式が持つ魅力に気づかないという事が挙げられる。結果として、まちの魅力が薄れて行き、後世にその歴史的景観や、蔵にかかわる伝統文化の残らないことが危惧される。そのような状況にもかかわらず、現在喜多方には、どれほどの蔵が存在するのか、その実態は把握されていない。

喜多方の誇りを失わないためにも、「北方圏」を一つの地域として考える北方ツーリズムの実現のためにも全域の蔵の実態を把握することが必要である。

近年、学習指導要領に「総合的な学習の時間」、いわゆる「総合学習」が組み込まれた。これは、自ら課題を見つけて、自ら学び、考える力を育成する事を重要な目標として掲げている。児童、生徒が自らの生活の基盤である地域社会の事象を学習対象とし、日常生活と学習を結びつけることは、非常に価値ある学習となる。

本報告は、「蔵」を総合学習のプログラムに組み込み、専門家やまちづくり団体と連携して活動することによって、
・多くの市民や子供達にとって、そして、まちづくり活動にとってどのような意義、効果、または課題があるのかを探る
・総合学習を利用した喜多方の「蔵」に関する実態調査を試験的に行う
という2点を目的とする。

1. 喜多方の蔵について

1-1. 喜多方の蔵の歴史

喜多方市は、会津盆地北部に位置し、古来、会津地方の北部であったことから北方(きたかた)と呼ばれていた。会津藩に属していた近世には、若松と米沢を結ぶ物資の集散地であった小荒井、小田付両村が在郷町として発展していた。明治8年、小荒井、小田付、塚原、清次袋、稲村の5カ村が合併し、喜多方町となり(当時人口約4000人、戸数850戸余)、昭和29年に喜多方町と周辺7カ村が合併して喜多方市となった(当時人口約42844人、戸数7642戸)。現在の市域面積は約150.40km²。平成13年6月時点で人口は37,225人、世帯数は11,476世帯。現在は「蔵とラーメンのまち」として全国に知られ、年間約100万人が訪れる観光都市である。

近世以来の都市基盤をもとに漆器業、桐加工業、醸造業等の地場産業によって明治以降も栄え、近年は観光都市となった。しかし、車社会の進展に伴う商業経済圏の変化により、中心市街地の空洞化や観光客数の伸び悩みといった多くの地方中小都市が抱えている問題を喜多方市も抱えている。

喜多方市内には、約2600棟もの蔵造りの建造物が現存しており、その数は、日本でも有数を誇る。蔵造りの建造物のほとんどは土蔵造りで、多くは白漆喰だが黒漆喰のものもある。江戸、明治、大正、昭和の各時代にわたって建設されているが、建設時期で最も多いのは明治時代のものである。これは明治13年の小荒井大火以後、防火のため火災に強い蔵造りの建物がこの地に盛んに建てられたことを雄弁に物語っている。また、煉瓦造りのものもあり、これらは、喜多方地方独自の文化の現れであろう。また、「男四十にして蔵の一つも建てられないようでは男ではない」といった風潮が、多くの蔵造りの建造物を喜多方にもたらしたと言われている。

1-2. 喜多方の蔵の現状

(1) 歴史的建造物の残存状況

蔵造りの建造物は、喜多方市街のみならず周辺集落も含め、市域全域に広く分布している。特に市街地内の小荒井地区(中央通り沿い)、小田付地区(南町通り沿い)では、蔵造り商家の町並みが形成されており、昭和54年(1979)には伝統的建造物群保存調査が行われている。周辺集落では、三津谷集落の煉瓦蔵群、杉山集落の農家蔵群などが残り、昭和56年(1981)に伝統的建造物群保存調査が行われている。その他、下三宮集落には鏝絵のある蔵群が残る。

しかしながら、20年以上前に行われた調査は、社会状況の急激な変化等に対応しているとは考えがたい。また、喜多方の蔵は、そのほとんどが、生活の場として機能しており、実態調査が十分に行われてこなかった。その結果、現在喜多方に、蔵がどの程度、どの場所に、どのような状況で残存しているかということを十分に把握することが出来ていない。

今後、蔵をテーマにまちづくりを進めていく以上、蔵の実態を十分に把握することは、必要不可欠である。



図1: 喜多方市概略図

(2) まちづくり活動

現在のような厳しい状況の中で、これまで蔵造りの建造物が残されてきたのは、所有者の自助努力によるところが大きい。蔵の所有者を中心として、蔵造りの建造物に対する愛着は深く、できることなら残したいと考えている市民は多い。市が平成7年に行った「蔵に対する所有者意識調査」でも、「蔵を保存すべき」と回答した所有者が95%以上を示しており、保存の意識が高く、また、保存する理由としては、「文化財としての価値」と「風土と生活に密着した建物であるため」という回答が互いに4割弱程度を占め、誇りを持っている所有者が少なくないことが分かる。そうした所有者が中心となって、「蔵の会」のまちづくり活動がはじまった。「蔵の会」は、喜多方の生活文化の象徴である蔵をまちづくりに活用し、自らが誇りを持てるまちをつくり、まちを再生することを目指して活動を行っている。また、東京大学都市デザイン研究室が、2000年より蔵の会のまちづくり活動をサポートする形で、喜多方のまちづくりを考えてきた。都市デザイン研究室は、まちかどミュージアムなど、できることから徐々に活動を行い、蔵とその関連文化を活かしたまちづくり活動を広げていった。このような活動と並行して、小田付地区においても2003年に小田付町衆会が設立されるなど互いに相乗効果をもたらしながら、喜多方におけるまちづくり活動が活発になってきている。

しかし、実際に蔵がどのような状況に置かれているのか、詳細な情報が無いため、蔵をどのようにまもり、利活用をどのように進めるのかを具体的に考えることは困難であった。ここ数年でも、取り壊された蔵がいくつもあげられる状況の中で、市域全域における詳細な情報を早く得る事が、蔵を活用したまちづくりには必要不可欠であると考えられた。

また、実際に活動に参加している人たちが限られてしまっているという問題点もあり、継続的な活動のためにも次世代になう子供たちに蔵のよさを知ってもらい、まちづくり活動に参加してもらうことも重要であると考えられた。

このような考えのもと、蔵を総合学習に取り込み、専門家やまちづくり団体と連携することで、子供たちの蔵への関心の喚起や、蔵の実態調査の試験的調査が試みられた。

2. 総合学習について —地域文化・歴史の学習素材としての蔵の見直し—

2-1. 子供とまちづくりの関わり

次世代を担う子供が、自分たちのまちにどのように関わりあうことができるか、様々な活動が行われてきた。自治体では、例えば、世田谷区の「まちづくりリレーイベント」、「まちづくりコンクール」杉並区の「シルクロード探検隊」など、子供が遊び心を持って町にかかわることのできる活動が行われてきた。小学校では、従来、中学年の「社会科」の授業で、地域学習を行ってきた。1990年になると、「生活科」が導入され、身近な環境を学びの対象とするようになってきた。そして、2002年度には、「総合的な学習の時間(総合学習)」が導入された。総合学習においては、教育分野やまちづくり分野で、多少の先進例が報告されている。しかしながら、導入されて間もないということもあり、全国的にみると、現段階では手探りでやり方を模索している状況である。このような状況にある総合学習においては、全国で行われている活動を共有し、質を高めていくことが望まれる。

2-2. 喜多方市の総合学習の変遷・現状 (略)

3. 蔵学習について

2003年6月に喜多方市教育委員会において、教育委員会の担当者、指導に当たる先生、蔵の会メンバー、東京大学都市デザイン研究室メンバーの四者で事前打ち合わせを行い、蔵学習のねらいや年間の方針・スケジュールの確認を行った。この時点で、蔵学習を実施することを決めていたのは、表1に示した5校である。

この事前打ち合わせでは、年内に発表会を行うことと、蔵の会のメンバーと東京大学都市デザイン研究室メンバーを中心に構成される学習ボランティアによるサポートを活用する事が決まった。

表1:2003年度蔵学習実施校(2003年6月現在)

実施校名	実施学年	人数	可能実施時間	備考
市立第二小学校	3年生	80名	20時間程度	旧市街地南
市立豊川小学校	3年生	40名	15～20時間	市内南部
市立松山小学校	5年生	47名	10～15時間	市内北部
市立入田付小学校	5,6年生	13名	10時間	杉山、岩月地区
市立第一中学校				

実際に参加した熊倉小学校は、この段階では、参加が決定していなかったため、含まれていない。

3-1. 活動報告

(1)各校の取り組み概要

・松山小学校

松山小学校では、喜多方市内の蔵を調べた後、それぞれ興味のあるテーマに分かれて学習した。蔵の調査を、2度行い、けやきフェスタ(地域の人を集めた発表会)や蔵deしゃべんべ(後述)などに参加するなど内容の濃いものになった。以下に蔵deしゃべんべでの発表資料を抜粋する。



・入田付小学校

旧米沢街道(国道121号線)沿いの農村集落、入田付小学校では、近隣の杉山集落に残る蔵並みを調査した後、蔵の模型を制作した。その成果を、地域の発表会、蔵deしゃべんべで発表した。

以下は、入田付小学校が蔵deしゃべんべで発表した内容である。

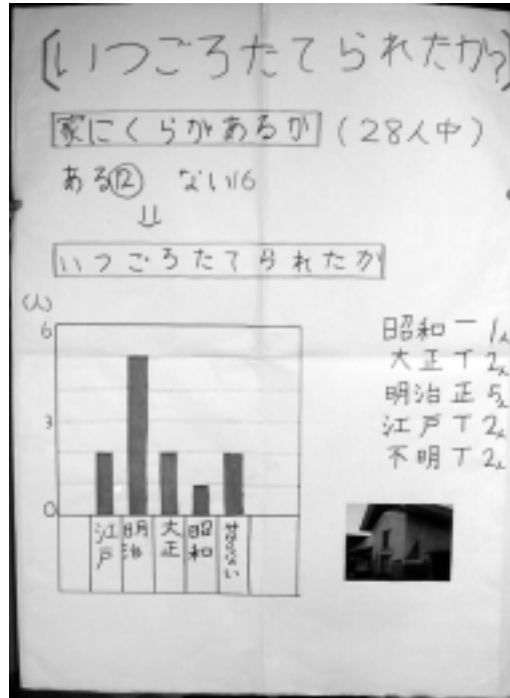
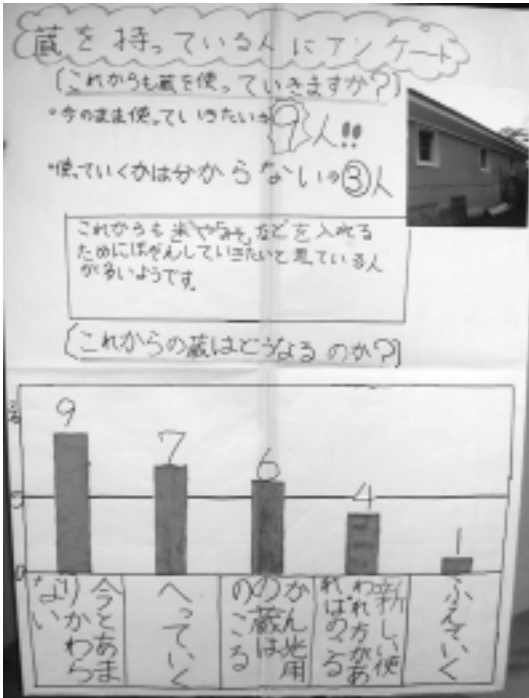


・豊川小学校

豊川小学校では、3つの蔵(若喜商店、甲斐商店、大和川酒造)を見学に行き、所有者に話を聞いた。3年生ということもあり、話の内容が理解しづらいところもあったという。本当は、もう少し多くの蔵に行きたかったが、時間の制約という壁にはばまれ、実現しなかった。先生の意欲は高く、今後期待できるであろう。

・熊倉小学校

熊倉小学校では、熊倉集落周辺の蔵探検を行った。残念ながら蔵探検は、1回のみで終わってしまったが、蔵deしゃべんべに参加して、調べたことを発表した。蔵という名詞は知っていてもどれが蔵なのかわからなかった子供たちが蔵を認識するようになったのは、大きな進歩だろう。また、このクラスは、家に蔵を持つ人が多く、保護者も蔵を見せる意欲を見せている。今後、継続できれば、更なる学習が期待できる。



・喜多方第二小学校

喜多方第二小学校は、他の学校と比べて人数が多く、まとめるのが困難であったという。しかし、7回も蔵探検に行くなど、意欲は高い。残念ながら蔵deしゃべんべでの派歩票はならなかったが、学習発表会では発表を行った。



各校の学習の流れを図2に示す。

小学校名	松山小学校	入田付小学校	豊川小学校	蔵倉小学校	第二小学校
テーマ	私たちの町 喜多方 ～地域、自然、人とのふれあいを通して～	蔵の秘密を探ろう	蔵のひみつを探ろう	ふるさと館倉をみつめて ～暮らし、長寿健康～	見たい知りたい 喜多方調査隊
学年	5年生	5,6年生	3年生	3年生	3年生
参加人数	46名	13名	41名	28名	80名
学習の流れ	<p>イメージマップの作成 市内の探検</p> <p>蔵について調べたいことを計画 課題作り</p> <p>どのようにできるのか 蔵の歴史 蔵が有名になったわけ 蔵の仕組み どんなところに蔵はあるのか どこにいくつ蔵があるのか</p> <p>資料で蔵を探る 本/パソコン</p> <p>第1回調査計画 第1回調査 1日：音読、発音 2日：調査書作成、蔵の歴史 3日：調査・学習調査、蔵の歴史、音読 4日：音読</p> <p>調査のまとめ 第2回調査計画 第2回調査 調査したことのまとめ 新聞・横断線・写真/ニュース形式</p> <p>けやきフェスタで発表</p> <p>コンピュータにまとめ</p> <p>蔵deしゃべんべ 活動のまとめ/反省</p>	<p>オリエンテーション/テーマ決め 蔵についての自分のテーマを決める</p> <p>資料集め/テーマの調査 杉山の蔵の下見 東大大学院生との見学</p> <p>第1次発表会 さらに調べたいことを確認</p> <p>模型作成決定</p> <p>共通テーマについてグループで話し合い</p> <p>蔵の中の見学で設計図の作り方模索</p> <p>蔵の設計図作り 骨組みづくり 屋根置き 壁の下塗り 壁の上塗り 障子張り</p> <p>蔵の模型作りを中心に 学習発表会で発表 「蔵探検物語」</p> <p>テーマ学習のまとめ 蔵deしゃべんべ</p>	<p>イメージマップ作成 喜多方にある資源の選別</p> <p>蔵について調べたいこと 質問したいこと決定</p> <ol style="list-style-type: none"> 中に何が あるの？ いつ建てられた？ 何で建てた？ マーク(屋号)は何？ <p>3班に分かれて蔵見学 教育委員会の紹介 若菜屋商店 大和川商店 甲斐本店</p> <p>保護者の参加</p> <p>個人で自由にまとめ 絵/文/新聞</p> <p>先生も蔵についてまとめ、 子供たちに説明</p>	<p>東大大学院生/専門家 と熊倉地域にある蔵めぐり 保護者の参加</p> <p>蔵について調べたいことを決定</p> <p>テーマごとに調査 本/家の人にヒアリング</p> <p>クラスの保護者にアンケート 蔵があるか/ないか 年代 使用目的 現在の用途 大きさ今後の予定</p> <p>調べたことのまとめ 蔵deしゃべんべ</p>	<p>地域産業 関連 せんべい から蔵を巡る</p> <p>蔵調査の決定</p> <p>蔵探検七回 東大大学院生/専門家の参加</p> <p>調べたことのまとめ 発表会で発表</p>
課題・反省等	<ul style="list-style-type: none"> ・実際蔵を見る機会を増やす。 ・保護者/専門家の協力 ・教育委員会のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・模型作りに予想以上の時間がかかった。 ・情報や経験の不足 ・教育委員会との連携不足 ・杉山以外の蔵の調査 ・模型以外の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生のまとめの遅れ ・学年的問題。5,6年でもう一度やりたい。 ・1年では短い。 ・教育委員会にもっと多くの蔵を紹介してほしい。 ・専門家の説明が難しい ・先生自身の言葉で説明したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵見学回数の少なさ ・教師自身の知識不足。ノウハウを学べる場を。 ・専門家のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力体制づくり ・情報不足 ・小学生/先生向けの資料があるといい ・一年間、子供達の興味を継続させる方法の確立

図2：各校の取り組み

(2)蔵 de しゃべんべ

2003年12月、蔵の会主催で、学習の発表の場として、「蔵 de しゃべんべ」が開催された。熊倉、入田付、松山小学校が参加し、発表を行った。その後、子供達が5つのグループに分かれ、蔵の所有者や専門家を交え座談会を行った。子供達の発表は、それぞれ調べたことをしっかりとまとめており、質の高さを感じた。座談会では、蔵の遊園地など、「子供たちならでは」という意見も出されたが、活発な発言が促されたとは言いがたく今後の課題となった。

3-2. 子供達の反応

(1) 全般的な傾向

全体的に、高学年である入田付小学校の生徒たちの関心が高かった。各自それぞれの興味のテーマを決めたことで、実際に見に行った際、ただ漠然と見るだけでなく、各自のテーマに沿って蔵を熱心に見ていた。

また、熊倉小学校は、3年生ながら、一グループ5、6人のグループに分け、それぞれのグループに蔵に関わる専門家、東京大学都市デザイン研究室の学生、保護者を一人ずつ同行することで、効率よく見て回ることができ、生徒達も積極的に所有者に話しかけ、中を見せてもらう等、うまく機能していた。

対照的に第二小は1グループ20人という大人数で行動したため、まとまった行動をすることが困難であった。

また、「蔵 de しゃべんべ」での子供たちの発表は、それぞれ調べたことをしっかりとまとめており、質の高さを感じた。しかし蔵の所有者との会話を際は、活発な発言が促されず今後の課題となった。

(2) アンケートから見る子供たちの意識

総合学習に参加した熊倉小学校、入田付小学校、松山小学校の生徒を対象として、蔵に対するイメージや要望を、アンケートにより調査した。アンケート結果から読み取れることとしては、

- ・ 若干学年による認識の際はあるものの、喜多方が蔵のまちであるという認識を持っている子供が多く、自身もそのことを感じている。
- ・ 彼らの蔵に対するイメージは、「すごい」、「不思議」「歴史がある」など蔵に対して、肯定的な見方をしている意見が多い。
- ・ 蔵で何かやってみたいと思っている子供も多く、やりたいこととしては、「壁塗り体験」、「昼寝」という意見が多かった。また、少人数であるが、「味噌作り」など、自分が体験「肝試し」、「かくれんぼ」などの意見も多く出された。
- ・ 蔵に住んでみたいかという質問には、答えが様々であった。外観は古くていいが、中がもっときれいだったら住んでみたいという意見が多かった。一方で、一泊など体験的には、ぜひ泊まって見たいという意見も見られた。
- ・ 蔵についてもっと知りたいことは、という質問に対しては、「蔵の数」、「職人の数」、「使っている材料」、「種類」などが多く、今後、子供たちが、蔵の実態調査に参加することができるのではないかという可能性が見出された。
- ・ 「蔵がどんな風になったらいいか」という質問に対しては、子供の遊び場、蔵の本屋、レストラン、映画館など様々な意見があった。また、酒や味噌を作る体験所や公民館、集会所、などの公共性の高い用途にしたという意見もあり、子供たちの柔軟な意見を参考にする必要性が感じられた。

(3) 特記する事項

総合学習当初は、子供たちが、どの程度「蔵」について調べることができるのか未知数であったが、模型を制作する学校も出るなど、非常に質の高い内容になった。今後の「蔵」の実態調査への可能性を感じた。

3-3. 先生の反応

(1) 全体的な傾向

2004年4月に、蔵学習を行った5校の先生方にインタビューを行った。
 全体的な傾向としては、蔵学習に対して、肯定的な意見が多かった。先生方も子供達に喜多方を自慢できる子供に育てほしいという思いがあることや、教師自身が楽しんでいる場合が多い。一方で、教師自身の知識不足を課題に挙げている方も多く、情報提供や勉強会など、知識を得られる場が望まれていることが分かった。

ヒアリング結果を表に示す。

(2)工夫、課題

特に導入部で、どのように子供達に蔵に興味を持ってもらうか。というところが工夫のしどころになると思われる。豊川小学校では、初めにイメージマップを作成して、喜多方はどんな町かを想像させた。みな、喜多方は、蔵のまちというのは知っているが、「蔵」からは何も連想できなかった。「それなら蔵を勉強してみよう」という流れで蔵学習を行い、子供達も興味を持ったという。このように導入部を工夫することで、子供達もスムーズに蔵学習に入っていけるということがわかった。

	松山小学校	入田付小学校	豊川小学校	盛倉小学校	喜多方第二小学校
1. 総合学習前に先生が予想した内容の結果と実際の結果	予想：「取り掛かり/導入部に不安を感じた。 結果：期待以上の成果 ・子供たち方課題を見つけ出し、積極的にテーマを決めた。 ・自分で電話によるアポとり(マナーの学習) ・デジタルカメラの利用	模型作りに予想以上の時間がかった。 模型を作る際の所要時間が予想できないところが多かった。 情報源として、学生による説明会が非常に有効であった。 事前に発表の日程など流れをつかんでおく必要があった。	計画 ・蔵の歴史性、生活密着性への理解 ・蔵のまちの誇りを持つこと 結果 不十分 興味はみな持った 習熟度・理解度にやや疑問残る個人差あり	・調査活動をもう一度行いたかったが、実際時間が不足していたため、1回のみで終わってしまった。	蔵よりもその中味(つくる味など)に興味を示す子が多かった 発表の仕方の工夫あまりできなかった(1、2年生への説明と、親向けへの質問は違う) ・調べられない
2. 事前の学習計画と進行度のギャップについて			・先生のまとめ(PowerPoint)制作が遅くなった 見学後		
3. 子供たちの反応(特に学習前後での変化)	・他の県の蔵などまで興味拡大 ・喜多方の印象の変化：「ラーメン」「蔵」 ・構造を見てさらに興味を持った ・専門家に話を聞いたところと聞いていない班では、内容の理解度や興味の度合いが異なった。	学習中 ・一生懸命作業してくれた。先生の心配をよそに、1学期、2学期を通して子供たちのやる気が大きかった(忙しいときには、子供たちが土曜も作業していた) ・女の子だけでなく、男の子も骨組み作りなど楽しく作業できた。	イメージマップ作成段階 ・蔵からの連想が乏しい(蔵馬車のみ) ・蔵に関する知識ほとんどない ・調べたいこと、出にくい 見学後	学習前： 蔵に対する認知度が低かった。 学習後： 蔵に対して興味・関心を持つようになった。	・3年生だからか秋口では興味薄くなってしまった。 ・入れる品物によって蔵の種類が違うことに気づく ・これだけ蔵がある！というのは勉強になった。
4. 保護者の反応	初めは、疑問視する保護者もいたが、実際にやっていることを見てもらうことで保護者も納得した。	模型作りに関わっている生徒のお宅が、子供たちのために通常一般には公開していない蔵を見学する機会を設けてくれた。 子供の発表会を喜んでくれた。	見学時引率5名(ボランティア/仕事を休んで来た人も) 見学後 ・見落としていた蔵の存在に気づく ・今まで知らなかった/見ていなかった	活動の紹介に対する好意的な反応は大きかった 家の蔵を見せてもいいといった協力的な方が多かった。 蔵探検に参加して見て、今まで知らなかったことを発見できて勉強になったという意見があった。	・子供たちが蔵をやっていることで、新日本紀行を見たいという声が上がった。 子供が、ウチでもお話ししてる結果興味関心高まった

	松山小学校	入田付小学校	豊川小学校	熊倉小学校	喜多方第二小学校
5 改善の余地があると思われる点 (1)授業のノウハウとして	・もっと外へ出る回数(=実際にモノを見る機会)を増やしたい	発表直前まで模造作りが終わらないなど、日程がギリギリであった。全体の見通しが必要であった。 模造作りだけで終わったことが残念である。 模造作りをきっかけに、子供たちがもって(くれた)蔵に対する関心にかたえられればよかった。	・学年的問題(3年生の幼さ) ・期間的問題...1年では不十分	テーマごとに共同で調べることもしなかった。 蔵の作り方、材料などに関するものは専門家のサポートが必要。 グループの人数は6、7人が限度であり、多すぎてはうまくまとまらない。	・大人数対応、スケジュールの組み方(1時間ごと小分けに行く) 詳しい人がつくことで子供たちの質問内容もつぎつぎのものになる
(2)教育委員会や市などに対して	・機会づくりを求める ・もっと押ししてほしい	このような企画をただ紹介するだけ(声かけは上手)でなく、最後まで連携しながら進めたい必要がある。 願っているだけでなく自分たちなりに進めることもまた必要である。	・もっと他の蔵も紹介してほしい。 ・教育委員会の押しが欲しい。	蔵を題材に設定するにあたって、教育委員会の影響は大きい。 蔵作りに関する情報などを含めて、ノウハウを学べる場があるとよい。	
(3)蔵の会、町衆会などのまちづくり団体や観光ボランティア、その他の住民組織に要望すること	・専門家の総合学習へのさらなる協力参加...専門知識などの講義 ・専門家・職人による「蔵」についての体験談披露 ・学生が、子供の班に入りビデオなど撮影しながら見学 ・「蔵DEしゃべんべ」は勉強になった(蔵の維持の苦労、歴史など)またあれば参加したい。 ・実際問題、時間・交通手段などに限界があるので、保護者の協力が必要	職人さんの紹介など、コーディネート機能を期待している。	・専門用語など3年生には難しかった。 ・もっとわかりやすい説明が欲しい。		・PTA5、6名 子供たちに考えさせる ・詳細な年度計画をつくり、PTAの方でも位置づけてもらえるなど協力体制が望まれる。 ・行き先の蔵主も5、6人ぐらいが対応しやすい ・蔵の会の専門家協力も子供たちのためになる 興味づけさせられる
6. 継続性への展望	子供が考えたことを外へ向けて発信できるようにすることが望ましい。 「蔵DEしゃべんべ」での発言状況など、実際はまだまだ。今後に期待。	新5、6年生とのギャップをどう埋めるか、前年度の経験がある6年生が中心となって、5年生を引っ張る。 担任の先生の転勤といったことも考えられるが、学校としては総合学習に生徒の希望をできるだけ取り入れたいと考えている。(生徒が希望すれば継続先生にも、情報を入れる場が必要である。	・継続することは必要であり、複数回やりたい ・学生に来てほしい ・近所の蔵めぐりも考えられる	痛んだ蔵を題材に、壁の補修など実際に体験する場を設けてみたい。	・調べ学習の資料がなかなかでてこない(少ない) ・ネットで調べても、倉敷など... ・本も少ない ・突っ込んだ情報が利用しやすい状況にあればよい ・先生向けの資料 ・小学生向けの資料
7. その他率直な感想/実際に行ってきた苦労した点、良かった点など	・現地見学(3回)事前探索、調査1、調査2)した点 ・専門家など教授してくれる人がいたこと ・子供達の興味からの「課題作り」をしたこと ・が功を奏して、スムーズに学習を進められた。	調査デザイン研究室の作成した基礎資料集が役に立った。 自分も面白い、子供も面白くない、その点、先生自身にも新たな発見があり、子供と一緒に面白く活動でき、横型づくりの工程を特定の左官職人に頼りすぎた。 多忙のため、参加を得られないことがあり、左官技術の情報を得るのに苦労した。 (校長先生が地域の左官屋さんを紹介してくれたおかげで、指導を受けられ	イメージマップによる導入は蔵への興味をひく意味で良かった ・自分の言葉で蔵について語れるようになればよかった。 ・全体として充実。教師としては満足 ・総合学習を通して、喜多方を自慢できる人になって欲しい。 ・蔵の歴史の重みがかかる学習にしたい	教師自身が、あまり蔵に関する情報を知らなかった(情報を得られる場が少なかった) 情報があれば、活動の幅が広がったと思う 子供たちと一緒に調べてみて、先生自身蔵に興味を持つようになった。 蔵を地域の素材として調べ、今後に生かしていけたらいい。	子供たちが興味をもって調べることによって、思いもよらない面白い発見があるのではないか 初めは、ラメーンで総合学習を行おうとしていたので、途中から蔵に内容をすり合わせるのに苦労した。 ・色々な種類の蔵を全部回れるとベスト 日常的な存在であった蔵の重要性に気づくことができた。 学年による学習の差 小学校3年次において1年間継続して興味をもつか。 せっかく子供たちに興味を持ってもらったのだから、それが発展すればなおよい。

3-4. 父兄の反応

父兄の反応は、上場だった。特に、熊倉小学校では、蔵探検に保護者が付き添ったり、クラスで蔵を持つ家の半数以上が蔵学習の為に蔵の中を見せても良いという反応があるなど、良好であった。

また豊川小学校でも付き添いの保護者を募ったところ快く引き受けてくれる方がおり、保護者自身も普段自動車を通るため気づくことのない蔵に気づくという効果があった。

3-5. 小結

子供、教師、保護者問わず、今回の蔵学習で、今まで、自分たちのまちに存在していたが、自動車などに乗って移動してしまうため、気づかなかった地域資源に気づき改めて自分たちのまちを見直すきっかけになった。特に専門家に説明を聞いた子供たちは、模型を作るなど、質の高い学習ができたのではないだろうか。課題としては、情報提供など、学校側をサポートするシステムが望まれていることがわかった。教育委員会や学生、市民団体、保護者の更なる協力が望まれる。

4. 考察・今後の展開

今回の事業によって得られた効果について考察しながら、今後の展開を探っていく。

4-1. 考察

成果について概説すると、地域資源の認識、人のつながりの生成など、まちづくり活動のベースとなるあらゆることのきっかけを生むことができた。

第一の成果として、学校側に蔵という文化遺産・地域資源の存在をアピールできたことがあげられる。結果、蔵を題材にした総合学習は今後定着していく可能性が非常に高い。まちづくり教育にうってつけの重厚な歴史をもつ題材でありながら、蔵は学校教育の場で触れられる機会があまりに少なすぎた。

第二に、未来の地域の担い手たる子供に対して、蔵に触れさせることができたことがある。身近にありふれているが故によく知ることがなかった蔵についての経験を得たことで、子供達は蔵に対して純粋に興味を持ってくれた。これは長期的視点でみたとき、蔵文化の継承、ひいては地域資源を生かしたまちづくりに対して大きな寄与がある。数十年後でないともまちづくりに対する真の効果は測定できないが、まちに関する意識の高い市民を育成するきっかけとなるであろうことは評価できる。

第三に、総合学習の中での、蔵の実態調査の下地づくりを行うことができた。子供たちの調査は、彼らの住む地域の蔵の数の調査など実態調査が多く、今後、総合学習の中で、蔵の実態を調査していくことができるという可能性が見出された。

第四に、今まで接点のなかった人同士が総合学習をきっかけに新たなつながりを得ることができた。まちづくりへの影響という点でみると、今まで接点のなかった父兄の参加によって、蔵の会などのまちづくりとの接点が生まれた。また教育的視点からみると、子供と職人とのつながりを生んだことは、近年失われがちな、ものづくりの精神を伝える上で意味があるだろう。

4-2. 得られた知見：総合学習的なノウハウ

まず父母の協力が非常に効果的であることが挙げられる。今回の経験から子供対大人の人数の比率が、大人一人に子供6,7人ぐらいが限度であるということがわかった。40人のクラスであると一クラス最低6人の大人が必要になる。教師だけで6人を捻出することは不可能に近く、また顔なじみであるという長所があることから、父母が協力者として総合学習に参加することが望ましい。(熊倉小では、先行的に父母の人的支援を得ることができたが、円滑に蔵探検を遂行することができた。)理想としては、子供に対して説明する知識を持った人と、説明者をサポートし子供たちを見守る人の二人が、6,7人の子供を受け持つのがよい。

調査対象について基礎的な知識を事前に学習し、子供たちが、自分たちなりの視点を持っておくことが、子供主体の調査に際して有用であることがわかった。あらかじめ見るポイントが決まっていると、蔵探検の際に深く見ることができる。(入田付小など)視点があらかじめ決まっていないと、自分の思っていた地区のイメージと、実際の地区のギャップを発見することはできるが、逆に言うとそれに留まってしまう。(熊倉小など)

4-3. 課題・今後の展開

蔵に限らず地域資源を扱った総合学習を、全市的にかつ継続的に行っていくためには総合学習全体を取り仕切る組織が必要だろう。その組織は、学習を支援してもらえる人材の情報バンクとしての機能など、実際総合学習を行って得られた情報等を蓄積・共有する場となるべきである。蔵探検隊について言えば、蔵主の意向(この蔵主は、頼めば蔵を見せてくれるなど)の情報蓄積が重要である。先生同士の研究会等、既存の情報交換機能を持った組織を生かしながら、今後最良の形を探っていきたい。

まちづくり人材の育成という視点で見たとき、総合学習は、子供達が将来自分たちの町に誇りを持ってくれるようにするという目的のためのきっかけづくりであり、目的達成のためには継続性をもって、今後総合学習以外にも活動を広げてい

く必要がある。具体的には、現状では高学年でも「まちを知る」というレベルに留まっているので、今後は、「まちをどうしたいか」という視点を加える必要がある。できれば、小学校中学年で蔵学習を行った人が、もう一回ぐらい高学年で、提案することも含んだ蔵学習をやる機会があると良い。

また、「まちをどうするか」ということを考えようとする、学校という枠組みにとられないネットワークが必要になる。上記の総合学習を取り仕切る組織が主体となって学校教育以外の立場との連携を図っていかなければならない。成果の発信についても今後工夫しなければいけないポイントである。今年度は発表会というかたちをとったが、単なる発表だけでは伝達力が弱い。他のまちづくりイベントと抱き合わせてやる必要があるだろう。また子供たちの成果を広く喧伝することで大人を発奮させる効果を期待したい。そのための具体的手法として、来街者に対しては観光案内所や駅、住民に対してはスーパーなどに成果物をまとめたものを置くことを提案したい。

5 参考資料

(1)平成 7 年「蔵に対する所有者意識調査」抜粋

蔵の保存についての考え方

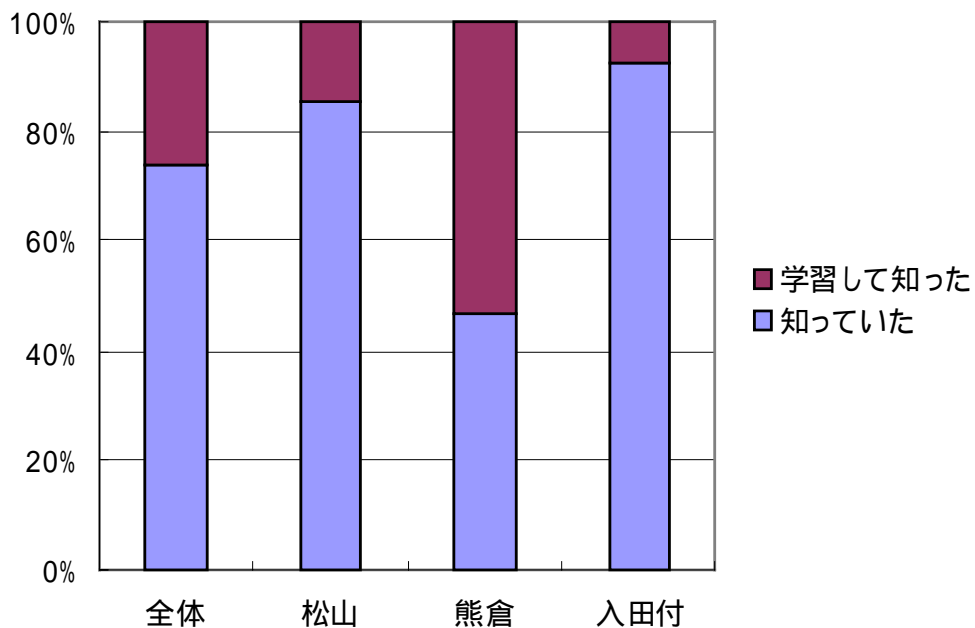
積極的に保存すべき	できるだけ保存すべき	保存しなくても良い	その他	合計
384	835	25	20	1264 件
30.4	66.1	2.0	1.6	100.0 %

蔵の保存(保存すべき理由)

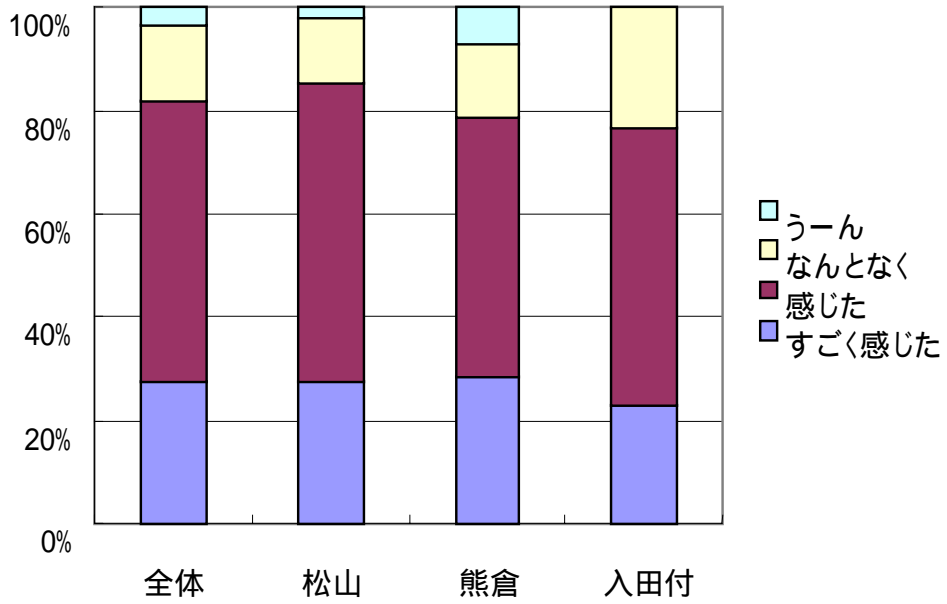
文化遺産としての価値があるため	風土と生活に密着した建物であるため	喜多方市の誇れるものの一つであるため	観光資源であるため	その他	合計
579	532	217	198	34	1560 件
37.1	34.1	13.9	12.7	2.2	100.0 %

(2)松山、熊倉、入田付各小学校に対するアンケート結果

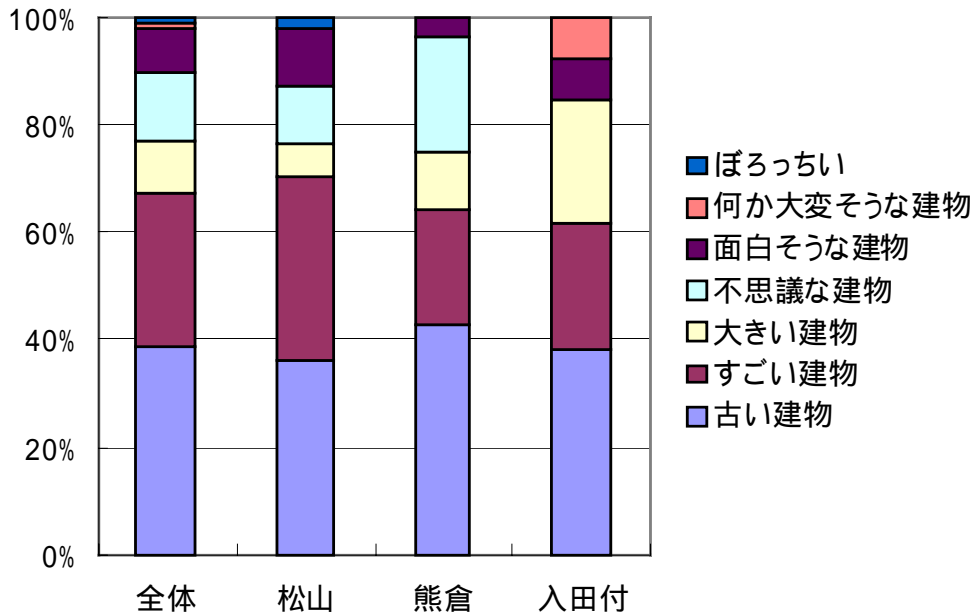
質問1:喜多方は蔵の街って知っていた?



質問2: 蔵の町を感じた？

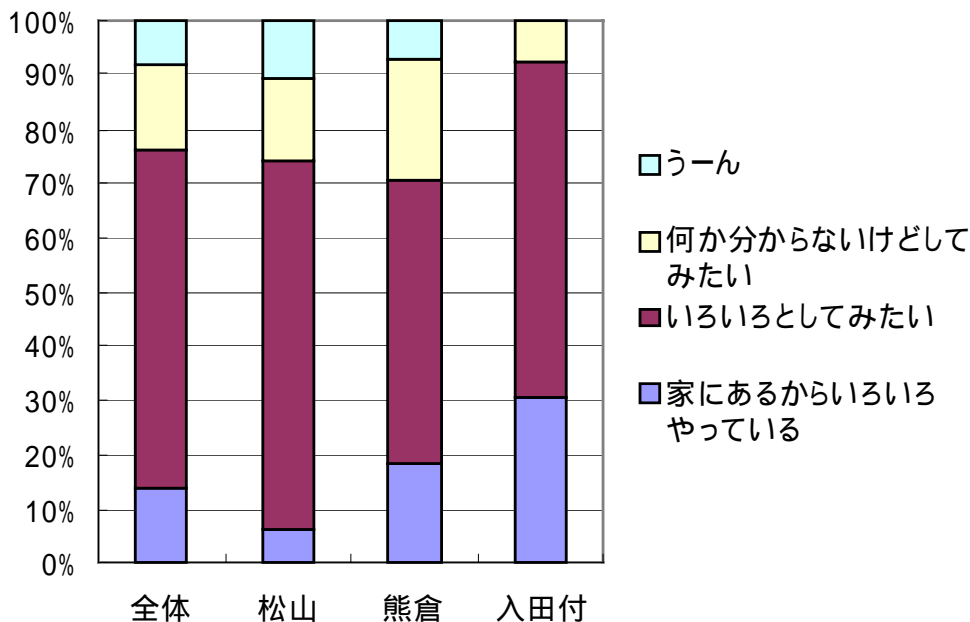


質問3: 蔵についてどう思った？



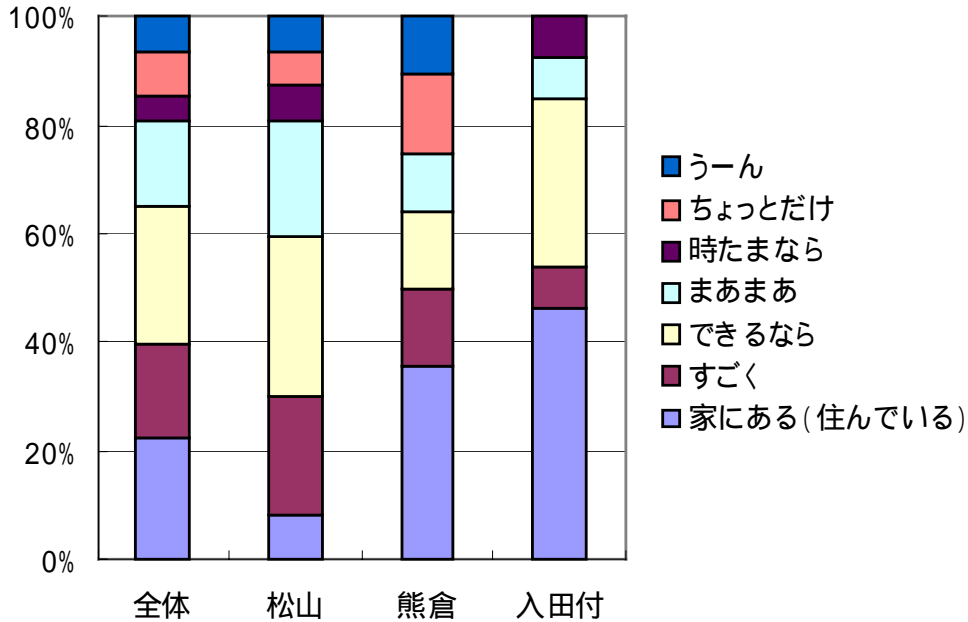
質問3			
フリーアンサー回答	回答人数	フリーアンサー回答	回答人数
・蔵の歴史に関する回答		・蔵の形態に関する回答	
歴史があって、面白い	6人	すごい	3人
歴史がある	2人	立派	1人
ずっと前からあった	1人	古い	1人
・蔵の材料に関する回答		きれい	
土で出来ているのはすごい	1人	不思議	1人
色々な材料で作られている建物	1人	古いと思っていたが、新しいのもあった	1人
瓦屋やとたんの建物などいろいろある	1人	大きい	1人
漆喰の材料が多い(カイソウフリ、ツタ、セッカイなど)	1人	珍しい	1人
・用途に関する回答		腰壁など色々特徴があり面白い	
便利な建物	1人	頑丈	1人
蔵の中が工夫されていてすごい	1人		
中を変えると住めそう	1人		
色々なものが中に入りそう	1人		

質問4: 蔵で何かしてみたい？



質問4			
フリーアンサー回答	回答人数	フリーアンサー回答	回答人数
・遊びに関する回答		・体験に関する回答	
肝試し	23人	壁塗り体験	16人
かくれんぼ	19人	昼寝	12人
探検	2人	泊まってみたい	2人
遊ぶ	2人	味噌づくり体験	1人
蔵の中でゲームをしたい	2人	子どもだけで住んでみたい	1人
おにごっこ	1人	蔵の中を体験してみたい	1人
何か面白い仕掛けを作りたい	1人	普通に住んでみたい。	1人
蔵の中でテレビを見たい	1人	その他	
・図画工作に関する回答		太極拳	
工作	9人		
写生	6人		
写真	3人		

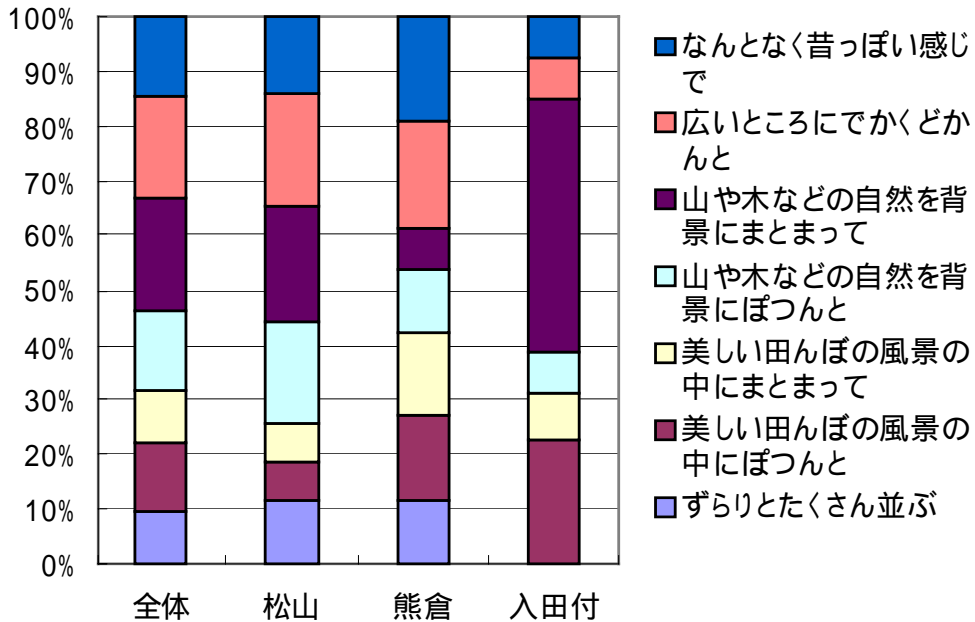
質問5: 蔵のある家か、蔵に住んでみたい?



質問5-2蔵がどんな風だったら住んでみたい?			
回答	回答人数	回答	回答人数
・外観・内観に関する回答		・用途に関する回答	
きれい	21人	秘密基地みたいな蔵	3人
外はぼろっくって中はきれい	1人	遊び場がある	2人
明るい	3人	大きくてたくさん階段がある、からくり屋敷みたいな蔵	1人
豪華	3人	中がレストラン	1人
和風的に作りあげる	1人	もっと大きくてなんでもあったらいい	1人
いろんな色があるといい	1人	中が面白い	1人
立派	1人	2階建てと地下室	1人
外側はそのまま中を変えたら	1人	机とベッドと台所とみんな(子供)が住める	1人
すごく豪華で二階もあるところなら	1人	・その他	
・材料や強度に関する回答		蔵の独特な臭いがないといい	
コンクリートの蔵がいい	1人	蔵が迷路風なら住んでみたい	1人
中は金でできていたら住みたい	1人	古い歴史がある	1人
柱も、何もかもがじょうぶ	1人	電気が普通の家ほんとの家みたいに階段もある	1人
規模に関する回答		古い刀などあったらいい	1人
広い	4人	新しくてインドみたいなのがいい	1人

質問5-3蔵がこんなだったらもっといいのにな			
回答	回答人数	回答	回答人数
・規模に関する回答		・用途に関する回答	
広い	7人	蔵が普通の家みたいだったらいい: 2人	2人
いろんな部屋がある	1人	蔵に模様をかけた、おもしろくなると思う	1人
・外観・内観に関する回答		遊べたらいい	
きれい	6人	テレビと冷蔵庫とコタツと電機、秘密基地があったらいい	1人
もっと片付いていたらいい	1人	漆喰がかわいたら、みんなで絵をかく。(漆喰に)	1人
ぼろぼろでなかったらいい	1人	・材料に関する回答	
かわいい	1人	蔵が全部「金」、窓まで「金」	1人
見た目も中もきれい	1人		
中がきれい	1人		

質問6: 蔵のかっこいい景色は？



質問6	回答人数	フリーアンサー回答	回答人数
フリーアンサー回答		フリーアンサー回答	
・田舎		・まち	
別荘みたいに建っている。	1人	賑やかで楽しい感じの場所に建つ	1人
田舎町の中に建つ	1人	ちょっとは町にあってもいいんじゃないか。	1人
蔵とか家と混ざって田舎っぽいところ	1人	なんとなく町かど	1人
海に建っていると良い	1人	ところどころにいっぱい！（木々も入れて）	1人
山の景色に溶け込むように建つ	1人		
大きな木の横に、木影にかぶって建つ	1人		

問7蔵でもっと知りたいことはある？	回答人数	回答	回答人数
回答		回答	
・歴史に関する回答		・蔵の種類に関する回答	
なんで蔵ができたの？	4人	蔵の種類	2人
一番新しい蔵はどれか	1人	蔵の種類	1人
大昔は、どのように作っていたか	1人	何で蔵のいるは大体同じなのか	1人
喜多方市内の蔵の歴史	1人	何階建てでできているか	1人
蔵はいつ作られたか	1人	一番長い蔵はなんm?	1人
いまでも蔵は作られるか	1人	赤レンガの蔵のこと	1人
蔵の中には、今は、醤油や味噌の作るだけ昔は、蔵の中に人がすんでいたのか	1人	蔵で味噌蔵について知りたい。	1人
蔵はなんでそんなにもつのか（歴史が）	1人	家紋のことについて	1人
蔵を最初に設計した人を調べて見たい	1人	蔵の種類を調べてみたい	1人
昔は物置きやみそ作り以外に蔵でやったことは？	1人	・用途・中身	
誰が作ったのか、それは、いつなのか	1人	蔵の中をもう一度みたい	1人
・数・人数に関する回答		酒や味噌や蔵を作っているところを見たい	1人
喜多方で蔵を持っている人は何人いるか	1人	実際に体験してみたい	1人
蔵の数	1人	うちには蔵が2つあって、2階建てだけ他の家は、はどうなのかな？	1人
・蔵のつくりに関する回答		・その他	
なぜ、夏になるとすずしく、冬になると暖かくなるのか	2人	喜多方以外にたくさん蔵があるところはあるのかどうか	3人
蔵は、何で作られているのか	1人	日本には、いくつくらいの蔵があるか、どんなところにあるか	1人
蔵は何人の人だと何日で作れるか	1人	使うものは、どこからどうやって運んできたのか	1人
蔵はなんで地震につよいのか？	1人	ほかの地方の蔵のこと	1人
丈夫さ	1人	蔵は全国に何件あるか。	1人
屋根の作り	1人	蔵は、どんな場所になってもいいのかな	1人
蔵の構造	1人		
蔵は何で土で建てられているのか	1人		
蔵はなぜ白と黒なのか	1人		

問8蔵がこんな風だったらいい。	回答人数	回答	回答人数
・遊びに関する回答		・食に関する回答	
子供の遊び場	3人	ラーメン屋：2人	2人
蔵が秘密基地	3人	レストラン：2人	2人
お化け屋敷	3人	和風料理店	1人
中にゲームセンター	2人	・創作に関する回答	
みんなで怖い話ができる場所	1人	蔵の中で、酒や味噌などを作る	1人
忍者屋敷	1人	漆喰がかわいた上にみんなで絵を書く	1人
中が広くて物がたくさん入れられて、楽しく遊べて少々派手	1人	・鑑賞・学習に関する回答	
蔵が迷路だったらおもしろい	1人	蔵の博物館：3人	3人
公民館、集会所（みんなが楽しめる場所）	1人	美術館：3人	3人
蔵を利用した遊園地	1人	映画館：3人	3人
・住む・泊まることに関する回答		から）	2人
中で住める	7人	昔の写真や絵が飾ってあったりする場所	1人
蔵のホテル	1人	歴史なんかも知りたい	1人
クラスみんなで蔵に泊まれる	1人	蔵の中が学校	1人
蔵にいろんな部屋があり、いろんな人が住んでいる	1人	蔵に関しての本がたくさんある蔵の本屋。	1人
・蔵の形態に関する回答		蔵の写真などを販売	1人
蔵の壁に色があったらいい	3人	蔵のおき物などを売る	1人
もっと水に強い蔵	1人	・その他の回答	
蔵がピラミッドだったらいい	1人	人で賑わう	1人
蔵がお金だったらいい	1人	今のままでよい。	1人
普通の家見たく出張ってところがもっとあったらいい	1人	芝生が生えてたらいい"	1人
蔵がかっこいい	1人	蔵を海にしたら楽しそう	1人
蔵の出入り口が自動であくような蔵がいい	1人	蔵を大事に使う	1人
壁がきちんとなっていたらいい	1人	床がプリンみたいにぶにぶにしていると面白い。	1人
家とあわせたい	1人		
しい	1人		

蔵を題材とした総合学習/先生方に対するヒアリングシート

ヒアリング対象小学校：

記録者：

0：実際にやった学習記録/事前の学習計画書があれば見せていただく。

1：総合学習前に先生が予想した内容の結果と実際の結果

2：事前の学習計画と進行度のギャップについて

3：子供たちの反応（特に学習前後での変化）

4：保護者の反応

5：改善の余地があると思われる点

(1)授業のノウハウとして

(2)教育委員会や市などに対して

(3)蔵の会、町衆会などのまちづくり団体や、観光ボランティア、その他の住民組織に要望すること

6：継続性への展望

7：その他率直な感想/実際に行って苦労した点、良かった点など